

大阪インターナショナルチャーチ

ダン・エルリック

2017-08-27

コロサイ 3：1-25

「教会用の服」

中心聖句：コロサイ 3：14

I. 導入

おはようございます。OICの兄弟姉妹の皆さんとこうしてともに礼拝できてとてもうれしいです。初めてお会いする方もいらっしゃいますが、以前からよく知っている方もたくさんいらっしゃいます。神さまが皆さんを祝福してくださいますように。

今日は、2週間前に始まったコロサイ人への手紙の学びを続けていきましょう。過去2回のメッセージでは、この手紙のタイトルにもあるコロサイの町についてあまり触れられていなかったようです。そこで、少しここで紹介しておきましょう。ご覧の地図にあるとおり、コロサイは、現在のトルコにあり、エペソの北東160kmほどの場所に位置します。

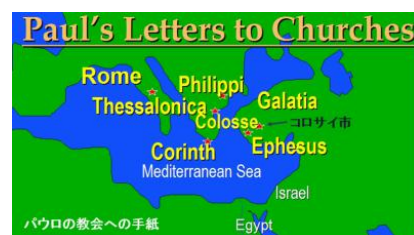
パウロが手紙を送った他の町と違って、コロサイの遺跡はまだ発掘されていません。去年、私は妻といっしょに、パウロの足跡をたどってトルコとギリシャを訪れるツアーに参加しました。そのとき、古代コロサイの遺丘をこの写真に撮りました。考古学者がこの場所を発掘すれば、コロサイについてもっといろいろなことがわかるでしょう。

この場所の発掘作業を進めると、紀元前5世紀から紀元12世紀に栄えた大地方都市の道や建物が出土すると考えられています。それらはすべて、トルコの侵攻によって破壊されました。コロサイは商業都市で、深紅や紫の羊毛産業が盛んでした。このような羊毛はローマ帝国で広く取引されていました。エペソとユーフラテス川流域を結ぶ主要道路はコロサイの近くを通過していたので、コロサイは貿易に便利な立地でした。

コロサイは、紀元60年の大地震で大きな被害を受けたこともわかっています。これは重要な情報です。というのも、手紙が地震に一切触れていないことから、パウロがコロサイに手紙を書き送ったのは地震が起きる前の紀元50年代だと推測することができるからです。

コロサイ人への手紙の前半は、教義に焦点を絞り、キリストの卓越性を強調します。今日学ぶ3章では、パウロが教義からクリスチャン生活へと話題を移していきます。ではまず、その背景を理解するために、コロサイ2章を少し読みましょう。

コロサイ 2:9-12



2:9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。2:10 そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです。2:11 キリストにあって、あなたがたは人の手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受けたのです。2:12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、キリストとともによみがえらされたのです。

この箇所は、キリストが神であることを強調します。そして、キリストを信じる信仰によって得た私たちのアイデンティティーについても言及します。パウロは、新しい信徒が水のバプテスマを受けて水の中から出てくる情景を用いて、私たちの霊的な新生と復活を描きます。パウロは、引き続きコロサイ 3:1-14まで同じコンセプトを使い、神の驚くべき祝福にわたしがどのように応答すべきかを説明します。



II. コロサイ 3:1-14

3:1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。3:2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。3:3 あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです。3:4 私たちのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現れます。3:5 ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼拝なのです。3:6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。3:7 あなたがたも、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をしていました。3:8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。3:9 互いに偽りを言うてはいけません。あなたがたは、古い人をその行いといっしょに脱ぎ捨てて、3:10 新しい人を着たのです。新しい人は、造り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。3:11 そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。3:12 それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。3:13 互いに忍び合い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。3:14 そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。

III. メッセージ

愛を着けなさい。パウロはあらゆる徳を身に着けるようにと勧めますが、愛がその根底にあるものであり、それを完成させるものでもあり



ます。イエスの十字架の死は、神が私たちに深く愛して下さることの証です。愛を身に着けることで、神のなされた御業に応えなさいと、パウロは勧めます。その愛とは、神に対する愛と互いに対する愛です。これについては、後ほどまたお話ししましょう。

まず、冒頭の箇所を見ていきましょう。コロサイ 3：1-2 は次のように語ります。「3:1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占めておられます。3:2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いなさい。」信仰によってイエス・キリストの復活に与った私たちは、心も思いもこの世のものではなく、上のもの、つまり天にあるもの、神に属するものに向けるべきです。このような心の一新は、神の聖霊が私たちのうちに働かれることによって成されます。しかし、私たちが率先して神の喜ばれる態度や行いを求めるようにとパウロは教えます。

パウロは 5 節で、世俗的な性質のものは殺してしまいなさいと語ります。そして、コロサイ 3：8 では、「しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨ててしまいなさい。」と言います。新共同訳や新改訳では「捨ててしまいなさい。」と訳されていますが、「これらすべてを脱ぎなさい。」とする訳もあります。この部分で使われている原語の単語は、衣類を脱いで脇に置くという意味で使う単語です。ですから、私たちは、しみがついて汚れた服を脱ぎ捨てるように、「怒り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことば」を取り除くべきなのです。けれども、裸のままにいるということではありません。むしろ、もっと良いものを身に着けるということです。

パウロは 10 節で、「新しい人を着」なさいと語ります。そして、コロサイ 3：11 で、「そこには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうちにおられるのです。」と続けます。この箇所は、国や人種、社会的地位に関わらず、教会にはどんな差別や偏見もあってはならないことを明確にします。

続いてコロサイ 3：12 で、「それゆえ、神に選ばれた者、聖なる、愛されている者として、あなたがたは深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。」と語ります。聖霊は私たちの心を変えてくださいます。それは奇跡です。そのような奇跡がなければ、私たちは罪から逃れられません。けれども、私たちにもすべきことがあります。神が私たちに神の民としてくださったことに応えなければなりません。神は私たちに新しく身に着けるべきものを与えてくださいました。けれども、それを毎日着ると選択するのは私たち自身です。

ところで、今朝起きて着替えたとき、何を着るかどうかやって決めましたか。私はミズーリ州キャメロンで育ちましたが、子どものころ母は私と兄を聖マンチンカトリック教会の礼拝に連れていってくれました。

教会の人はとても親切でしたが、少し堅い雰囲気でした。母はいつも、ネクタイとジャケットを着なさいと私たちに言いつけました。カトリックの子どもたちやプロテスタントでも教会に行くためによそいきの服を着るところが今でも多いと思います。私たち兄弟が日曜のよそいき



の服を着た写真はありますが、テキサス州サンアントニオの聖エリザベス・アン・セトン・カトリック教会の写真をご覧いただくと、わかりやすいでしょう。

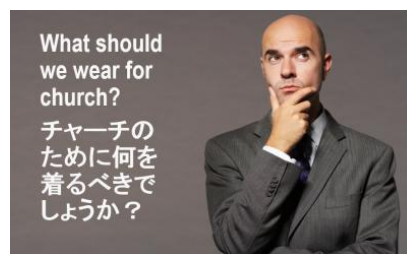
母は、神さまはきよいお方だから教会に行く時は一番いい服を着ていくのよ、と私たちに話してくれました。そして、日曜日の朝になると、「教会用の服を着なさい」と言うのです。そう言われると、私たち兄弟は、一番きれいなよそいきの服を着るのだと理解していました。

後になって、カリフォルニア州のカルバリチャペルの働きをとおして、私はイエスを本当に受け入れて信じるようになりました。そこでは、教会用の服について違った考え方を教わりました。そこでは、ネクタイやジャケットを着ることで神のきよさを主張するのではなく、神が私たちの天の父であり、私たちは神の子とされたのだということを強調していました。神の家族の一員とされたという親しい関係に焦点を置く教えは、礼拝に来る時の服装にも反映されていました。ほとんどの人は、家族と食事をするときと同じ服装で教会に来るのです。



では、教会用の服装としてどちらが正しいのでしょうか。アメリカの多くの教会が取り入れたカジュアルスタイルのほうがよいのでしょうか。それとも、教会にはネクタイとジャケットを着たほうがよいのでしょうか。

それは、教会の伝統や個人の好みの問題だと私は思います。教会にカジュアルな服装で来る人もいれば、フォーマルな服装で来る人もいます。一方、「教会に何を着ていくべきか」という質問には、もっと深い意味があります。



このような問いかけを聞くと、たいてい人は、日曜礼拝に教会という建物に行くことを思い浮かべるでしょう。それは当然です。けれども、聖書の観点では、教会は建物ではありません。さらに、聖書が身に着けることについて語るとき、実際に身に着けるものよりも比喩的に語っていることのほうが多いと思います。

聖書では、教会は信徒たちが集まる建物ではなく、常に信徒たちの集まりそのものを指します。この写真は、ウガンダのカンパラの兄弟姉妹です。彼らは、教会が信徒の集まりだという真理を教えてください。彼らは木の下で礼拝をささげています。建物はありますが、彼らは教会です。



さらに、私たちは日曜だけでなく毎日教会です。そして、どこに行っても教会でありつづけます。礼拝のために特定の建物に行くときだけ教会なのではありません。では、教会に何を着るべきでしょう。この問いに対して、パウロなら、どんなシャツやズボンや靴を着なさいという答えはしないでしょう。

パウロは、「深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容」を身に着けなさいとコロサイ 3:12 で語った後、14節で「そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なものです。」と力説します。

着物のように同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容をひとつずつ着ていって、最後に愛を帯のように締めることがイメージできます。

ただし、それらの美德を体に着けるのではなく、心に着るのです。私たちは教会に何を着るべきでしょうか。同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容、そして愛です。毎日、これらのもので私たちの心を神が満たしてくださるようにと祈って一日を始めるなら、私たちは教会になっていけるでしょう。週に一度か二度の礼拝に何を着ていくかはそれほど大きな問題ではありません。けれども、私たちが日々心を整えて、さまよう世にとっての教会となることはとても大切です。イエスはヨハネ 13:35で「もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」とおっしゃいました。愛は教会のしるしです。それによって、この世は私たちがイエスに従う者であると認識するのです。



コロサイ 3章の残りの部分で、パウロはクリスチャン生活について実践的に指導します。15-25節を読んで、愛を身に着けた心がこれらの教えをどのように実践するか考えてみましょう。

IV. コロサイ 3:15-25

3:15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。3:16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住ませ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。3:17 あなたがたのすることは、ことばによる行いによるを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主によって父なる神に感謝しなさい。3:18 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。3:19 夫たちよ。妻を愛しなさい。つらく当たってはいけません。3:20 子どもたちよ。すべてのことについて、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです。3:21 父たちよ。子どもをおこらせてはいけません。彼らを気落ちさせないためです。3:22 奴隷たちよ。すべてのことについて、地上の主人に従いなさい。人のごきげんりのような、うわべだけの仕方ではなく、主を恐れかしこみつつ、真心から従いなさい。3:23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心からしなさい。3:24 あなたがたは、主から報いとして、御国を相続させていただくことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。3:25 不正を行う者は、自分が行った不正の報いを受けます。それには不公平な扱いはありません。

V. 結論

パウロの言葉は、当時の社会状況がある程度は反映しています。例えば、当時、奴隷は一般的でしたし、たいていの場合、女の人は結婚相手を自分で選ぶことはできませんでした。パウロは、当時の社会状況に適した指導をしなければなりません。そうでないと、読み手がその指導に従うことはできないからです。しかし、この3章を全体的に見れば、パウロが強調している同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容、そして愛が社会状況の改善を常に求める上での道徳的基盤となることは明らかです。とくに、パウロはコ

ロサイ 3:11 で、教会には奴隷も自由人もないと語りました。パウロは奴隷制を是認しているわけではありません。ただ、当時の現実として対処しているのです。

今日は、この個所に書かれた具体例をすべて話すことはしませんが、17 節、23 節、24 節に注目してください。この 3 つの個所は、密接に関連しています。

「あなたがたのすることは、ことばによると行いによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、…何をするにも、…主に対してするように、心からしなさい。…あなたがたは主キリストに仕えているのです。」

最後に一言でまとめたいと思います。日々、神の喜ばれる徳を身に着けるよう努めましょう。とくに愛を身に着けましょう。そして何をするにも、主イエスの御名によってなし、主に仕えているように最善を尽くしましょう。私たちが仕えているのは主キリストだからです。

祈りましょう。